石川県

石川県立 いしかわ特別支援学校

- 建築主　／石川県
- 所在地　／〒920-3116 石川県金沢市南森本町リ1番1
- 敷地面積 ／ 52,156㎡
- 建築面積 ／ 13,980㎡
- 延床面積 ／ 20,233㎡
- 構造・規模／鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造）２階建
- 施工期間 ／平成16年10月～平成18年3月（Ⅰ期工事）
  平成18年10月～平成20年3月（Ⅱ期工事）

肢体不自由

学部	児童生徒数	クラス数
小学部	56（46）	20（16）
中学部	35（28）	13（10）
高等部	44（25）	14（10）
合計	135	－

※平成23年5月現在
※（　）内は、重複障害学級の児童生徒数とクラス数（内数）

知的障害

学部	児童生徒数	クラス数
小学部	54（14）	14（5）
中学部	57（7）	12（3）
高等部	75（5）	13（2）
合計	186	－

※平成23年5月現在
※（　）内は、重複障害学級の児童生徒数とクラス数（内数）

計画に見られる指針改訂のポイント

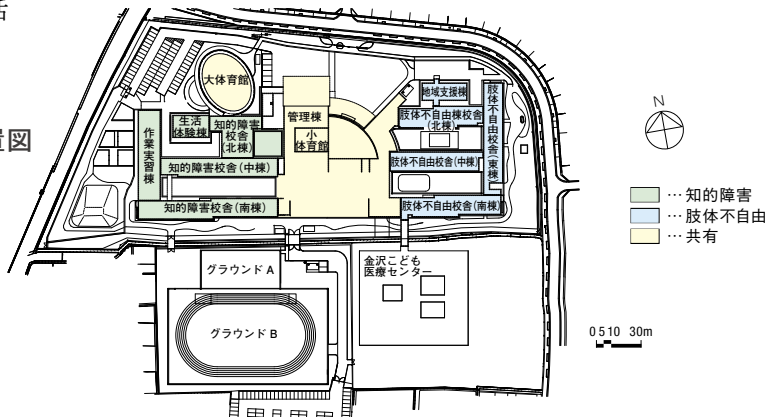
- ■ 一人一人の教育的ニーズへの対応
- ■ 学習・生活空間の充実
- ■ センター的機能の充実や地域交流への対応

多様な学習内容・形態への弾力的な対応を可能にする施設

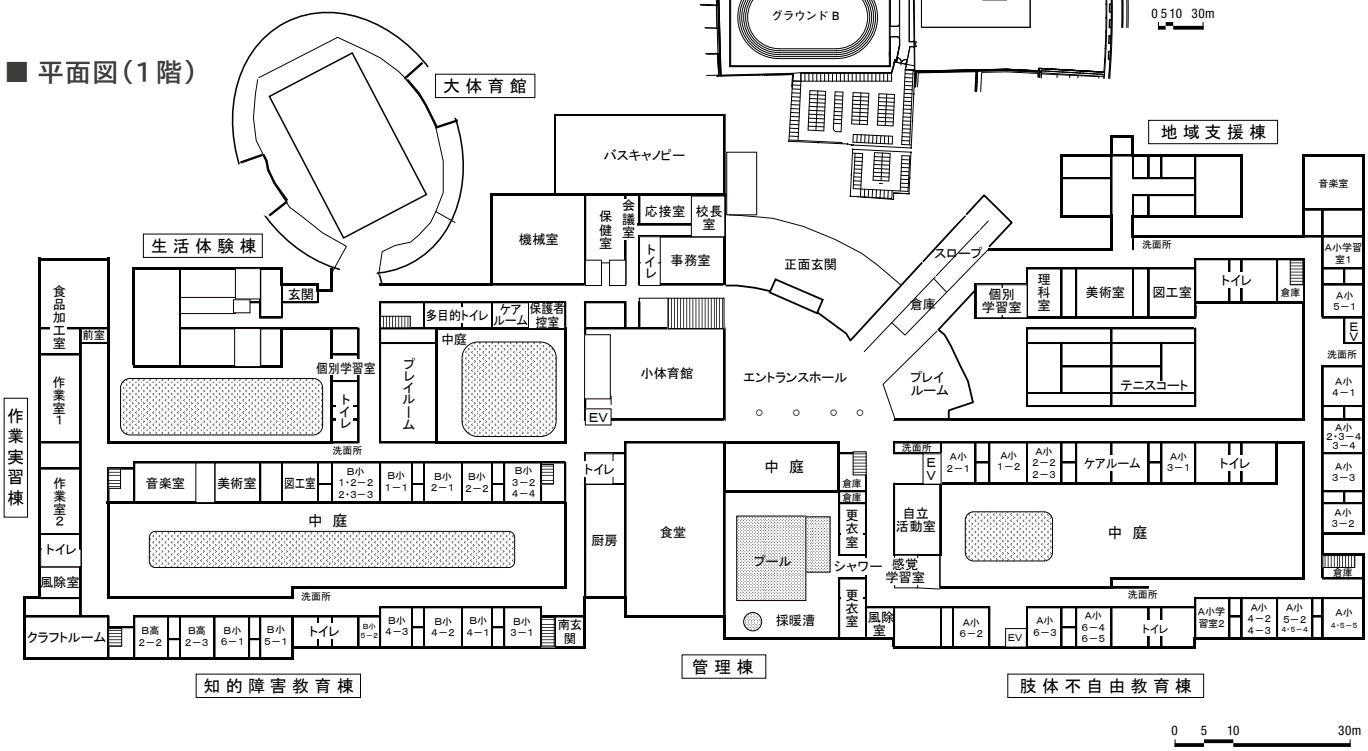
普通教室には可動間仕切りや収納空間などを設置し、個別から集団まで多様な教育活動に弾力的に対応できる空間を整備している。多様な活動を通じて、児童生徒の主体的な学びを支援し、豊かな学校生活を送ることができるよう工夫している。

可動間仕切りをオープンにして広い空間を確保し、集団での学習活動にも弾力的に対応している

■ 配置図



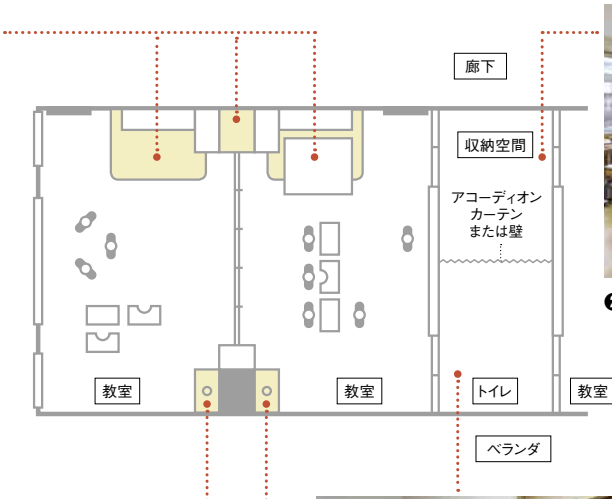
■ 平面図（1階）



一人一人の教育的ニーズへの対応

▶▶活用しやすい普通教室／運動と感覚からアプローチする自立支援室

❶車いすの児童生徒が多く集まる授業や集団活動の際は、教室中央の可動間仕切りをオープンにし、2教室連結の広い空間として使用している。教室の一部に設置されたカーテンスペースは個別空間となり、着替えや、個別学習時に利用している。



❷教室と教室の間に設けられた幅3.5m,奥行2mの教材・教具等の収納空間は、大型の教材も収納が可能となっている。

❸教室には手洗い場を設置している。外での活動の後に手洗い、うがいの指導ができ、感染症予防に有効である。

❹小学部低学年の教室にはトイレが設置されており、児童生徒の要望にすぐに応えることが可能である。

❺障害の状態に応じた支援が行える自立活動室は、スイング遊具が取り付けられる吊り具を天井に設置している。

❻感覚学習室は、光や音、匂い、振動、触感などの刺激を通して外界を感じ取りやすくする空間を構成している。

施設全体の特徴

肢体不自由教育棟と知的障害教育棟を分け、中央にエントランスホールや食堂、小体育館などの共用施設を有する管理棟を設置している。教室は、収納や可動間仕切りを整備し、多様な教育活動が行えるように工夫されている。

施設全体は、バリアフリーにきめ細かく対応している。トイレや手洗い場などについても、障害や体格等の違いに配慮した設計となっている。

多目的に活用でき使い勝手のよい普通教室

普通教室は2クラスを1ユニットとして設計している。教室中央の可動間仕切りをオープンにして2教室連結の広い空間にでき、学習集団や学習内容に応じた、柔軟な指導が可能である。教室の一部に設置されたカーテンスペースは個別空間となり、着替えや、個別学習時に利用することができる(❶)。

教室と教室の間には、収納スペースがあり、教材・教具の準備が容易である。幅3.5m、奥行2mの広い空間を確保しているため、大型の教材も収納することができる(❷)。

教室の中には手洗い場を設置しており、外での活動の後にも手洗い、うがいの指導を行うことができ、感染症予防に有効である(❸)。

小学部低学年の教室にはトイレが設置されており、児童の要望にすぐに応えることが可能である(❹)。

学習・生活空間の充実

▶▶児童生徒の交流や障害・体格等の違いへの配慮

❼給食時には食堂に両部門の児童生徒が集う。

❽昇降口前に広がる両部門共用のエントランスホールには、動線に配慮しながら交流のためのベンチなどが設置されている。

❾トイレには、汚物洗浄のための流しを設置している。

⓫廊下幅を3.5mと広く取っており、車いすを教室の前においても移動の支障とならない配慮がなされている。

❿廊下の手洗い場は車いすの利用や体格等を考慮して2段階の高さとし、車いすに乗った状態で近づけるよう、洗面台の下部を広く空けている。

自立活動を支援する施設の充実

肢体不自由や重度重複障害の児童生徒の自立活動や感覚支援のために、自立活動室、感覚学習室を設置している。

自立活動室には、スイング遊具、トランポリン、バランスボールなどを置き、感覚のバランスを整える活動（感覚統合）を実施している（❺）。メーカーと連携して、補助具の改善や開発の提案などにも取り組んでいる。

感覚学習室は、光や音、匂い、振動、触感などを刺激する機材を備え、刺激を通して外界を感じ取りやすくする空間としている。外界からの刺激に対して反応の少ない児童生徒が、この部屋で活動し刺激を受けることによって徐々に反応が増えてくるといった効果も出ている（❻）。

児童生徒の障害や体格等を考慮した施設設計

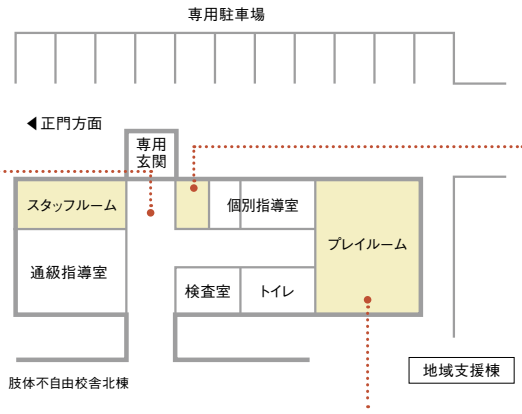
給食時に全校の児童生徒が集う食堂や、校舎の中心である二層吹き抜けの開放的なエントランスホールは、知的障害教育部門と肢体不自由教育部門の児童生徒の双方が自然に交流できる空間になっている。エントランスホールには、ベンチやソファが設置されており、給食後の休み時間や放課後には、児童生徒が友達や教職員と会話を楽しんでいる（❼、❽）。

トイレは車いすの出入りがしやすい広さを確保するとともに、シャワー室なども設けたほか、汚物洗浄のための流しも設置するなど、児童生徒の障害にきめ細かく対応できるよう整備されている（❾）。廊下の手洗い場についても、車いすの利用や体格等の違いに配慮して2段階の高さ

センター的機能の充実や地域交流への対応

▶▶地域の教職員や保護者からの相談に対応する地域支援室

⓬地域支援棟は、校舎から独立した造りにしており、外からアプローチできる玄関を設置している。スタッフルームには、専任のスタッフが６人配置されている。



⓭相談室では、マジックミラー越しに隣接する個別指導室の様子を観察でき、子どもの活動を見ながら相談に対応できる。

⓮子どもとのやりとりを交えての相談が行えるよう、プレイルームが設置されている。

を設けるとともに、車いすに乗った状態で近づけるよう、洗面台の下部を広く空けている(⓫)。

廊下については、廊下幅を3.5m取り、車いすを教室の前に置いても移動に支障のないようにしている(⓫)。

相談対応のための地域支援室

地域の特別支援教育のセンター的機能を果たすため、地域支援室を設置し、相談に対応している。また、講師の派遣や研修会を通じて、地域の幼稚園や学校、保護者に対して情報発信を行っている。地域支援室が入る地域支援棟は、校舎から独立した造りにしており、専用玄関を設置してプライバシーに配慮している。スタッフルームには、専任のスタッフが６人配置されている(⓬)。

プレイルームや相談室、個別指導室等も設けており、子どもとのやりとりを交えながら相談に対応している(⓭、⓮)。

学校から

本校は平成18年４月に肢体不自由教育部門を、平成20年４月に知的障害教育部門を開設し、県内で初めての知肢併設校として開校しました。設計に当たっては石川県リハビリテーションセンターのバリアフリー推進工房の全面支援を受け、障害、体格等に関係なく誰もが使いやすいよう施設を設計しています。また、収納や可動間仕切りによって多様な使い方ができるように設計された教室は、指導を行う教員からも高い評価を得ています。

本校では、センター的機能にも力を入れています。地域支援室に寄せられる相談件数は、訪問や電話、FAXによるものを合わせて、年間3,000件を超えます。ニーズの高さに驚くとともに責任の重さを実感しています。

検討委員会から

本校は、知肢の特別支援学校が併設された好事例である。石川県は元々リハビリ関係の専門家が多く、それらの経験や知恵が本校の設計に活かされている。障害のある児童生徒にとって学びやすく、暮らしやすい教育環境をつくるためには、計画や設計時点で児童生徒の心身の特徴を想定しなくてはならない。この難題に経験豊富な県のリハビリテーションセンターが支援し、設計スタッフもその地の利を十分に生かしている。

空間の大規模化や高度化に伴い、空調、照明のエネルギー使用増加が問題となる。複合的な施設づくりでは、計画時に十分に検討しなければならない最要点課題の一つである。